

チャノキイロアザミウマ情報第1号

平成30年5月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

防除適期は5月中旬で、前年より7～10日早いです！
発生状況に注意し、防除しましょう。

1 発生ピークの予測

有効積算温度を利用したチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピーク予測日は、中山間部に位置する稲武を除いて**5月11日から16日**です（表1）。本年のチャノキイロアザミウマ第1世代成虫の発生ピークは、**前年より7日から10日早い**と予測します。

なお、3月から4月に引き続き5月の気温も高く推移することが見込まれており、平年に比べ日平均気温が1℃高く推移した場合、発生ピークは現時点の予測日より1日から2日早まる可能性があります。

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	豊橋	新城	伊良湖	稲武
第1世代	5/16	5/16	5/11	5/11	5/15	5/16	5/12	5/13	5/16	5/14	6/10
(前年)	5/23	5/23	5/20	5/20	5/23	5/24	5/22	5/23	5/26	5/22	6/16
前年差	7日早	7日早	9日早	9日早	8日早	8日早	10日早	10日早	10日早	8日早	6日早
第2世代	6/14	6/16	6/9	6/8	6/15	6/14	6/11	6/12	6/15	6/13	7/9

各地のアメダス平均気温から予測。

4月30日までは実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値）を用いて計算。

前年の第1世代は、前年気温の実測値を用いて計算。

2 防除

ブドウでは、例年5月上旬頃から成虫の飛来があり（図）、5月下旬から6月上旬に幼虫の発生が見られます。

カキでは、開花期頃から成虫の飛来が多くなります。

チャノキイロアザミウマの防除では、**成虫発生ピーク時の農薬散布が最も防除効果が高い**とされています。例年発生が多いほ場では、表1の第1世代成虫の発生ピーク時期を参考に表2の薬剤などで適期に防除しましょう。

また、防風用に植えているイヌマキやサンゴジュなどは、本種の発生源になりますので、これらの発生状況にも注意しましょう。

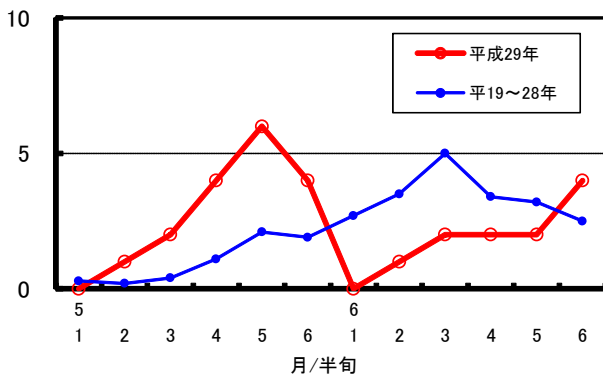


図 東浦町の黄色粘着板におけるチャノキイロアザミウマの誘殺状況

表2 チャノキイロアザミウマの主要な薬剤

作物	薬剤名
ブドウ	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤
	コルト顆粒水和剤
	モスピラン顆粒水溶剤
カキ	アルバリン/スタークル顆粒水溶剤
	スプラサイド水和剤

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。